

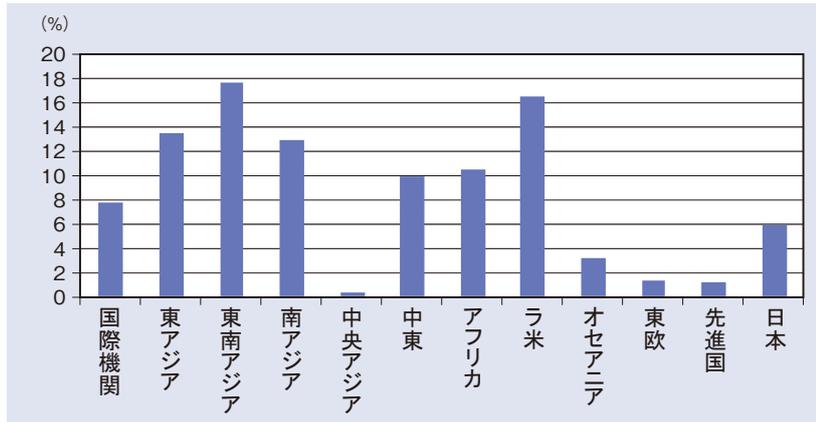
統計資料の構築

—他のコレクションとの相違点

東川 繁

アジア経済研究所図書館の所蔵資料のなかでも、統計資料はとりわけ重要な位置を占めている。二〇〇八（平成二〇）年度末の総

図1 地域別蔵書比率



(出所) 筆者作成。
(注) 2009年12月時点の数値にもとづく。

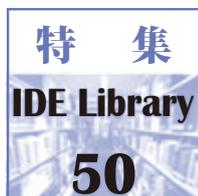
所蔵図書数は五八万七千七百五冊であるが、このうち統計資料は一九・三%の二万三千三百三十八冊となっている。また、地域別の蔵書比率は図1のとおりである。全体の約五分の一が統計資料ということになる。発展途上国の社会科学部門全領域を対象とする図書館としては高い比率である。研究所職員および外部閲覧者を対象としたアンケート調査の結果からも、一貫して統計資料に対する高い需要と期待の大きさがうかがえる。今後も、統計資料は研究所図書館において重要な位置を占めるものといえるであろう。以下においては、このような統計資料の構築の歴史と今後の課題について概観する。

●統計部主体の資料収集

本特集の他の箇所でも触れられているとおり、財団法人時代の一九五九（昭和三四）年六月に図書資料部が設置され、発展途上地域に関する資料の収集、資料事情の調査が開始された。このなかには統計資料も当然含まれている。これらの業務の成果の一環として、特殊法人になった翌一九六〇（昭和三五）年に『東南アジア統計資料目録

一九六〇』が刊行されている。そのようななか、一九六三（昭和三八）年二月に統計調査室が設置された。さらに、翌一九六四（昭和三九）年四月にはこれを拡大的に改編して統計部が発足した。それとともに、統計資料の収集・整備の業務が図書資料部から統計部に移管された。これ以降、統計部は三十数年にわたって研究所における統計資料の収集・整備・閲覧・情報提供の中心となってきた。

統計部における資料収集は、発展途上国の統計作成機関との資料交換を主体にしつつ、現地の政府刊行物販売機関や出版物貿易業者を通じての購入、研究所職員の海外出張時収集等の補完的手段によって実施されてきた。近年は全体として購入の比率が増加してきてはいるものの、資料交換はこれまでとくに重要な役割を果たしてきた。統計部が資料収集業務を開始した頃は統計資料の多くは非売品であり、秘匿性の高いものだったからである。そのため、資料交換は数少ないかつ有力な資料収集手段であった。さらに、資料交換の際に合わせて各機関にアンケートを送付し、資料情報の



入手にも努めた。このような地道な作業の継続によって相手機関に対する研究所の認知度が高まり、また相互の信頼関係も構築されていった。また、東南アジア地域を中心に統計作成機関との共同研究・共同作業が実施された。これらは、間接的に資料収集に有益なネットワークの拡充、強化に貢献した。

ここで、図書資料部における統計資料の収集・整備について若干触れておこう。統計資料関連業務が統計部に移管されたからといって、図書資料部が統計資料の収集を全面的に中止してしまっただけではない。部分的な統計資料収集はその後も継続された。利用者の便宜を考えて、というのが主な理由である。図書資料部、統計部とも資料の一般公開を実施してきたが、同じ建物内に閲覧室を持つとはいえず、統計資料の利用のために別室に移動するのは負担になる。

そこで、総合統計年鑑のような範囲が網羅的で利用者の多い基礎的な統計資料は、統計部との重複を承知のうえで収集されることがあった。このような資料には、中央銀行や財務省の年報のような、統計資料ではないが統計数値が重要な部分を構成している資料も含まれている。そのほか、寄贈された統計資料を受け入れたような、偶然の事情による場合もある。以上のような図書資料部と統計部によるいわば二元的な収集は、同じシリーズの資料が同じ図書館の二カ所に配置されるという形で両者の組織統

合以後もその影響が残ることになり、今日に至っている。

●組織再編と書誌標準化作業

一九九八（平成一〇）年七月のアジア経済研究所と日本貿易振興会の統合に伴い、統計調査部（一九八七「昭和六二」年四月に統計部から名称変更）と図書資料部が統合し、アジア経済研究所図書館の業務を担うことになった。統計資料関係業務の主要部分は、統合に伴い新設された逐次刊行物課に引き継がれた。同課に課された重要な役割のひとつに、書誌標準化作業がある。

これは、旧統計調査部が作成してきた統計雑誌・統計図書の書誌と旧図書資料部の書誌を調整・統合し、OPACによる蔵書検索が他の資料と同様にできるようにすることが目的である。ただし、分類は従来の方式が踏襲された。統計資料を一般図書とは別に配置することは管理上都合がよく、同時に利用者の便にもなると判断されたためである。逐次刊行物課は独立行政法人化に伴って二〇〇三（平成一五）年九月末で廃止されたが、標準化作業はその後も継続され、最終的に完了したのは二〇〇五（平成一七）年度末のことである。

●今後の課題

以上において、アジア経済研究所図書館における統計資料の構築はほかの資料とはかなり異なった歴史のうえに成立している

ことが理解いただけたと思う。最後に、統計資料に関する今後の課題について少し考えてみたい。少し前までは、CD-ROMなどのデジタル資料をどうするかということが主な検討の対象であった。この点に関しては、PCのOSが異なるとCD-ROMが起動しない場合があるといった技術的な問題はあいかかわらず存在するものの、CD-ROMの収集は着実に増加している。さらに、近年はウェブサイト上でPDFファイルとして提供する方式も増加しており、問題はより多面的になってきている。

しかし、より本質的と思われるのは人の問題である。統計部時代は四〜五人の職員が統計資料の収集から整理に至る流れを一貫して担当しており、経験に比例して専門的な知識が蓄積されていくような業務体制が取られていた。しかし、現時点においてはこの流れが切断されてしまっている。いうまでもなく、良質のコレクションを構築・維持していくためには統計資料に関する豊富な経験と専門的な知識を持つ複数の職員の共同作業が不可欠である。今後、人材育成上効果的な業務体制の再構築が必要になってくるものと思われる。また、業務分担とは別個の専門的教育も望まれよう。

（ひがしかわ しげる／アジア経済研究所図書館）